

「ナノ」「分子」「睡眠」「免疫」で 生命科学を革新する

—世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)—

2019

12/3 (火)

18:00 - 20:45 (17:30 受付開始)

(19:55-20:45 ネットワーキング)

@日本橋ライフサイエンスハブ
(室町ちばぎん三井ビルディング 8階)

文部科学省が推進する世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) では 13 の研究拠点が、世界から第一線の研究者が集まる「目に見える研究拠点」を形成し、日本の科学技術水準を維持・向上させていくため、果敢な挑戦を続けています。今回はその中から 4 拠点の活動概要と研究内容をご紹介します。医療、創薬、環境、食糧問題など、現代社会における喫緊の社会的・科学的課題への挑戦、その最前線をお伝えします。

拠点	概要 (ライフサイエンス分野での主な応用例)
NanoLSI	細胞内外の「未踏ナノ領域」を開拓し、生命現象の仕組みをナノレベルで理解する (タンパク質、細胞等の動態解析)
ITbM	世界を分子で変える: 合成化学と動植物生物学、理論化学の融合 (食糧・バイオマス、イメージング、バイオエネルギー)
IIIS	睡眠覚醒機構の解明を目指し、基礎から臨床までを網羅する世界トップレベルの睡眠医科学研究 (新規創薬・治療法開発)
IFReC	免疫学の基礎研究のさらなる深化と、先端的研究成果の社会還元加速 (新規創薬・治療法開発)



宇川 彰

日本学術振興会世界トップレベル
拠点形成推進センター長
WPIプログラム・ディレクター
「WPI 概要紹介」

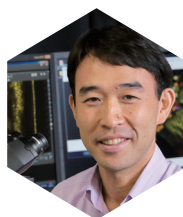
金沢大学ナノ生命科学研究所 (WPI-NanoLSI)



福間 剛士

金沢大学ナノ生命科学研究所 所長・教授
「革新的バイオ SPM 技術に
よる生命科学における
未踏ナノ領域の開拓」

名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 (WPI-ITbM)



東山 哲也

名古屋大学トランスフォーマティブ
生命分子研究所 副拠点長・主任研究者
名古屋大学大学院理学研究科 教授
東京大学大学院理学系研究科 教授
「動植物を操る新分子」

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 (WPI-IIIS)



柳沢 正史

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
機構長・教授
株式会社 S'UIMIN 代表取締役 CEO
「睡眠覚醒の謎に挑む」

大阪大学免疫学フロンティア研究センター (WPI-IFReC)



竹田 潔

大阪大学免疫学フロンティア研究センター
拠点長・粘膜免疫学 教授
大阪大学大学院医学系研究科免疫制御学 教授
「疾患克服を実現する
免疫学研究拠点の形成」

Networking Night *with supporters*

プログラム

- 17:30 - 受付開始
- 18:00 - 開会・LINK-J 紹介
- 18:05 - 宇川氏による事業概要説明
- 18:15 - 各拠点による講演
- 19:55 - ネットワーキング (会場内ホワイエ)

会場へのアクセス

日本橋ライフサイエンスハブ

東京都中央区日本橋室町 1-5-5
室町ちばぎん三井ビルディング 8 階
東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」直結



参加申し込み

下記サイトよりお申込みください

<https://linkj-nwn40.peatix.com>



※ LINK-J サポーター・会員の方は、割引コードをお伝えしますので、LINK-J までご連絡ください。

参加費

- LINK-J 会員 ¥500
- 非会員 ¥2,000
- 学生 無料 (当日要学生証提示)

※飲みもの、軽食付 (懇親会)

お問合せ

一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン (LINK-J)

TEL:03-3241-4911 (平日 9:00-17:00)
E-mail:contact@linkj.org web:www.linkj.org

登壇者プロフィール

宇川 彰 ウカワ アキラ

1972 年東京大学理学部物理学科卒業、1973～1977 年東京大学大学院理学系研究科物理学専攻、1977 年理学博士(東京大学)。職歴:1975～1980 年コーネル大学原子核研究所・ヨーロッパ原子核研究共同体 (CERN)・プリンストン大学物理学科にて研究員、1981～1983 年東京大学原子核研究所助教授、1984～1989 年筑波大学物理学系助教授、1990～2013 年同教授、1998～2006 年同計算物理学研究センター/計算科学研究センター長、2007～2008 年同学長特別補佐、2009～2012 年同副学長・理事、2014～2017 年理化学研究所計算科学研究機構副機構長、2018 年～現職。受賞:1994 年仁科記念賞。専門:素粒子物理学の理論的研究、特にスーパーコンピュータを駆使した計算科学研究を推進。同時に、そのためのスーパーコンピュータの開発・製作にも長年にわたり従事。科学諸分野と計算科学の学際的な分野としての計算科学の発展に尽力。

福岡 剛士 フクマ タケシ

2003 年に京都大学にて博士(工学)の学位を取得後、同大学博士研究員、Trinity College Dublin 主任研究者、金沢大学准教授を経て、2012 年から同大学教授を務める。2017 年には文科省 WPI 事業への採択を受けて、同大学ナノ生命科学研究所 (WPI-NanoLSI) の所長に着任し現在に至る。長年、液中原子間力顕微鏡 (AFM) 技術の開発と、様々な学術・産業分野におけるナノサイエンス研究に従事してきた。日本学術振興会賞 (2018)、文部科学大臣表彰若手科学者賞 (2011) などを受賞。

東山 哲也 ヒガシヤマ テツヤ

1994 年、東京大学理学部卒。1999 年、同大学で博士(理学)を取得。東京大学助手を経て、2007 年に名古屋大学教授に着任、2012 年から名古屋大学の現職、2019 年から東京大学の現職。2010 年～2017 年には、ERATO 東山ライブホロニクスプロジェクト研究総括を兼務。花の内部で起こる植物の受精を初めて映像でとらえ、140 年の謎とされた「花粉管誘引物質」を発見。化学や工学との異分野融合研究を展開。井上学術賞、中日文化賞など、受賞多数。国際植物生殖研究連盟 IASPRR 前会長、新学術領域研究「植物新種誕生原理」領域代表。

柳沢 正史 ヤナギサワ マサシ

筑波大学医学専門学群・大学院医学研究科博士課程修了。31 歳で渡米し、テキサス大学サウスウェスタン医学センター教授とハーワードヒューズ医学研究所研究員を 24 年にわたって併任。2010 年に内閣府最先端研究開発支援プログラム (FIRST) に採択されたことを受け、筑波大学に研究室を設立。2012 年より現職。大学院生の時に心血管系の重要な制御因子「エンドセリン」を同定、テキサスでは睡眠覚醒を制御する脳内物質「オレキシン」を発見した。これらの発見は、現在臨床で使われている新薬の開発に直接結びついた。

竹田 潔 タケダ キヨシ

大阪大学大学院医学系研究科修了。医学博士。医学部時代に当時の第三内科岸本忠三教授の講義に感銘を受け、免疫学の世界に飛び込む。兵庫医科大学助手、九州大学教授を経て 2007 年より大阪大学医学系研究科教授。2019 年 7 月より免疫学フロンティア研究センター拠点長。2009 年日本学術振興会賞、2016 年大阪科学賞受賞。Highly Cited Researchers (各研究分野で最も高い影響力を持つ科学者) にこれまで 3 回選出。現在、免疫と腸内環境因子がどのように影響しあい炎症性腸疾患が発症するのかを解明するプロジェクトが進行中。モットーは常に「夢」を持つて研究に取り組むこと。